

長谷川慶太郎・田母神俊雄著「この身死すともこれだけは言いたい」

季白社 2009年4月22日刊を読む

## 軍人という職業

1. 軍人という職業は、国籍に関係なく所属している軍隊を編成している国を防衛する点が、他の職業と決定的に異なるポイントなのである。たとえば、米軍では出身国に関係なく、米軍に参加する旨を自らの意思に基づいて表示したなら、どこの国籍の持ち主でも米軍に参加できる。
2. 現在、イラクに派遣されている米軍のうち、米国国籍のない兵員が全体の 18 パーセントに上る。このシステムは合衆国憲法で承認されており、独立戦争以来 200 年以上有効なのである。もっとも独立戦争当時、米軍だった「大陸軍」を編成し、英軍と戦うために軍事知識を持つ職業軍人を多数欧州から招いたジョージ・ワシントンは、彼らがどこの国籍であろうと米軍に忠誠を誓ってくれば十分と判断した。その伝統が、いまでも生きているのである。
3. 軍人というのは、一種の職業と割り切り、現在所属している軍隊に忠誠を誓い、所属している部隊の指揮官の命令に正確に服従して行動する行動に対して、その報酬と

P.169

## [コメント]

大不況の中で「大変だ、大変だ」と嘆いていても仕方がない。本書を何回も読み、何をどうしたらよいか考えることはとてもよい勉強になる。

- 2009年4月20日林明夫記 -